

スペースポートを巡る 海外動向について

一般社団法人Space Port Japan
2024年7月8日

Space Port Japanの紹介

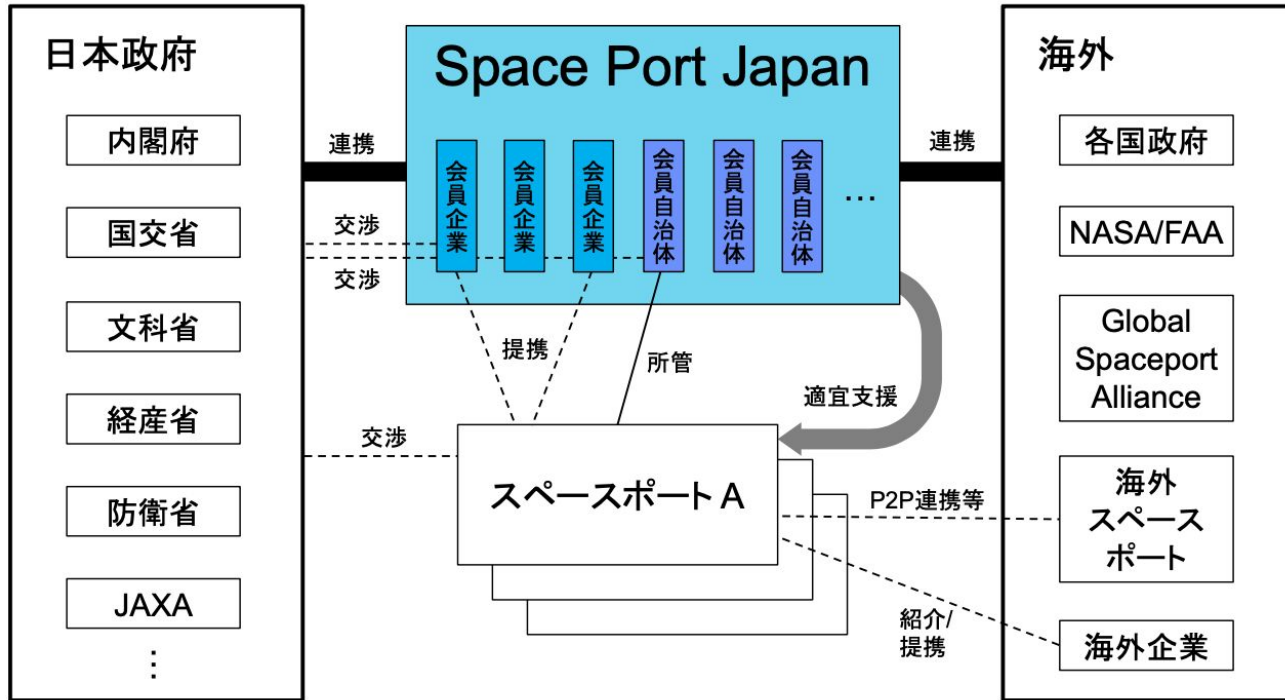
Space Port Japanについて

- ・法人名: 一般社団法人 Space Port Japan
- ・設立: 2018年7月
- ・目的: 日本に複数のスペースポート（宇宙港）を開港することをもって
広く日本の宇宙関連産業を振興する。そして将来は日本製の有人
スペースプレーンが日本のスペースポートに就航することを目指す。
- ・主な活動: 当法人が日本におけるスペースポートのハブとなる
 1. ビジネス機会の創出
 2. 政府機関との連携
 3. 国内外の関連企業および団体との情報交換および連携
 4. 情報発信、勉強会やイベントの開催 など
- ・URL: www.spaceport-japan.org



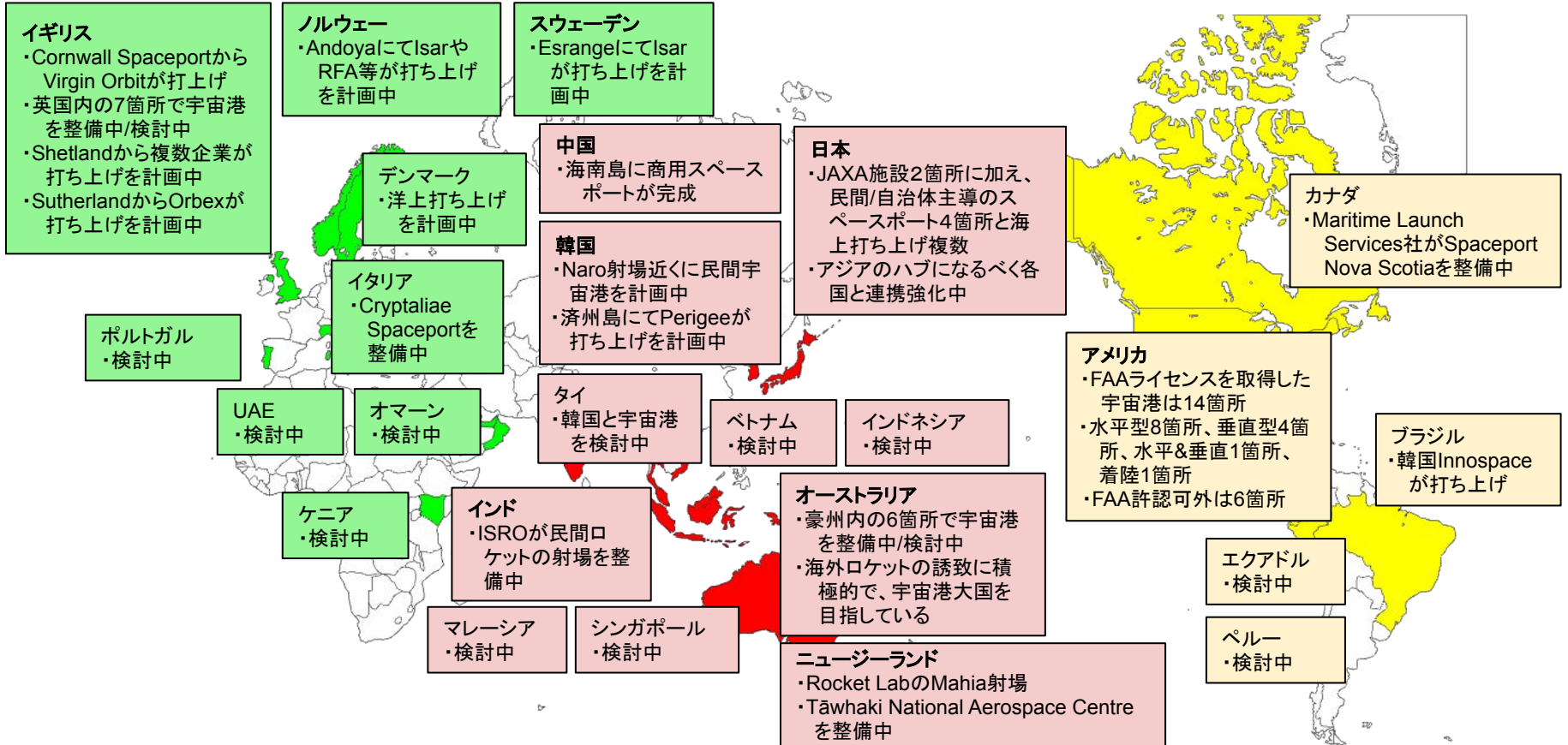
Space Port Japanの役割

長期的な目線に立ち、ルール作りや政策作りに参加。各スペースポート、自治体、機体メーカー等が連携することで、動きを加速させる(海外連携は必須ではない)



海外スペースポートの現状

世界の主なスペースポートの検討・開発状況



海外スペースポートに関する直近のトレンド

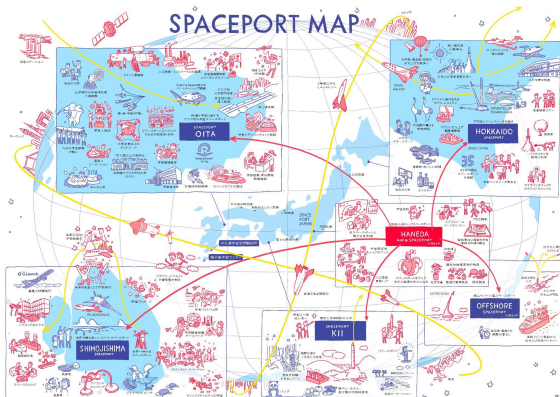
1. 国際間連携が急速に進み始めた
 - ロケットの輸出入が増加
 - 超高速2地点輸送を見据えたスペースポート間連携
2. Home and Away方式のロケット企業が海外で急増
 - 自国(もしくはメインのスペースポート)に加え、第2第3のスペースポート拠点を構える企業が増加している
 - 顧客が求める場所からの打ち上げにシフト
3. 政府管轄スペースポートもしくは周辺に民間スペースポートを建設

将来像と現状の課題整理

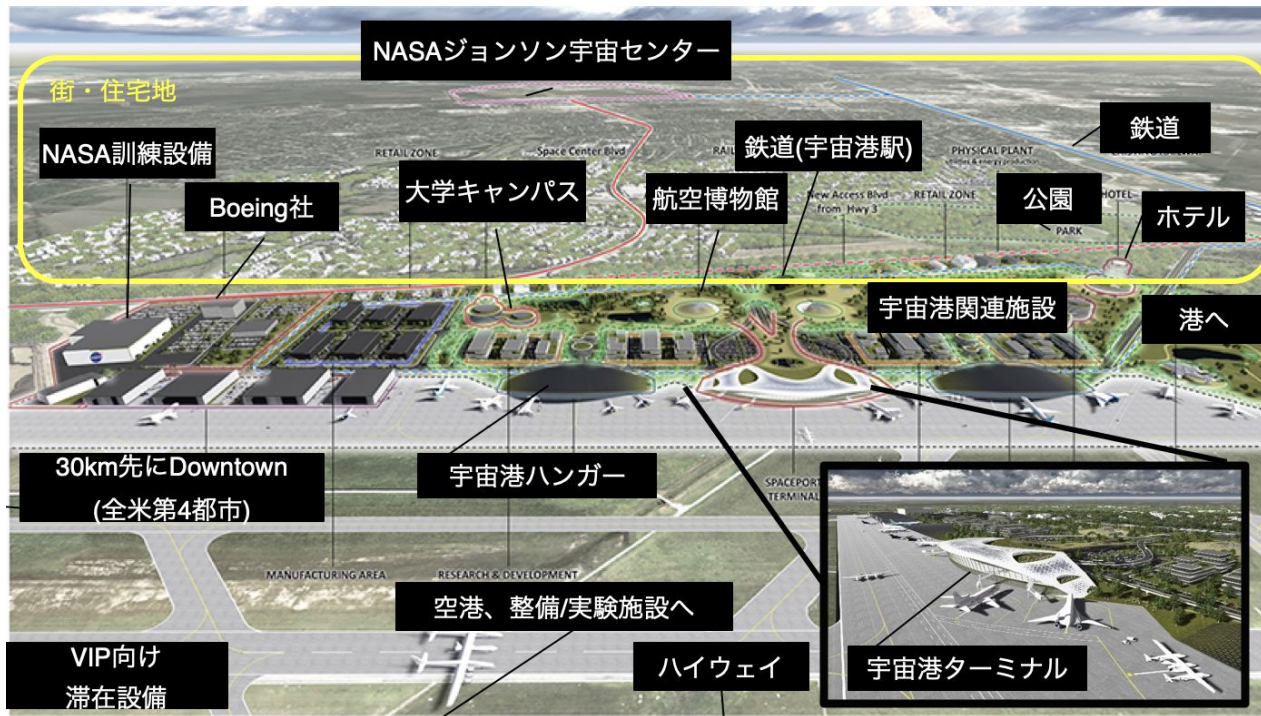
将来像：スペースポートが作り出す経済圏

スペースポート作りは、まちづくりであり、ものづくりや人づくりにも大きく影響を及ぼし、あらゆる関連産業への波及効果を生み出す。

日本が強みとするまちづくりがスペースポート産業においても生きてくる



ヒューストンスペースポートの例(都市型スペースポート)



国内における現状と課題

国内企業



将来宇宙輸送システム
Innovative Space Carrier

ロケットリンクテクノロジー



SPACE COTAN

海外企業 & 国内企業



将来宇宙輸送システム
Innovative Space Carrier

URSI MIJIBU



JAPAN AIRLINES



東京海上日動

その他複数
(非公開)

ロケット/スペースポート不足により打ち上げ需給が逼迫、日本にとってもチャンス。一方、国内小型商用衛星はほぼ海外からの打ち上げ。リスクを取って活動している打ち上げ事業者とスペースポートの支援にテコ入れをすべきであり、特に資金面(アンカーテナンシー)での支援が足りない状況。JAXA施設の民間開放も検討を開始すべき。

米国との連携に加えて、法整備や許認可を加速させる必要がある。特にAPACでスペースポートの取り組みが活発になってきており、このままだと打ち上げ市場を日本が失う可能性があり、まずは国内外の事業者を巻き込んで日本から宇宙輸送ができる場作りが必要。

まとめと要望

1. 日本政府の宇宙予算の多くが海外ロケット企業に流れている現状を止める必要がある
2. スペースポートの競争は激化しており、日本としてもスピーディーな対応が必要。特に、インフラ整備とスペースポート運営の両面で国・自治体の支援が必要
3. スペースポート/打ち上げ事業に関する法整備の加速(たとえば、打ち上げ事業者は、打ち上げの際に国・自治体・JAXAに必要な支援を求めることができるような法整備が必要。また1回ごとの打ち上げ許可ではなく、10回分等をまとめて申請できる制度の実現)
4. リスクを取って取り組んでいる事業者の支援が急務。同時に、単なる打ち上げ事業ではなく、顧客ニーズ・政府ニーズに合致する価値の高いサービス開発も必要。スピード感も重要
5. 内需拡大が見込める場合、海外連携も支援すべき。海外需要を取り込む打ち上げに対するアンカーテナンシー支援。TSAも不可欠